

KANEFUSA

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
株主確定基準日	(1)定時株主総会・期末配当 3月31日 (2)中間配当を実施する場合 9月30日 (3)その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を設定いたします。
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目7番20号 日本証券代行株式会社 名古屋支店 電話 052-261-1781(代表)
郵便物送付先 お問合せ先	〒137-8650 東京都江東区塩浜二丁目8番18号 日本証券代行株式会社 代理人部 電話 ☎0120-707-843
単元株式数	100株
公告方法	当社のホームページに掲載します。 <a href="http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html">http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html</a> ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

## ホームページのご案内

<http://www.kanefusa.co.jp>

当社ホームページでは、財務データやトピックス情報など、最新のIR情報や製品情報などをご覧いただけます。



株主・投資家の皆様へ

## 第63期 報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

## 第63期 報告書

## Contents

## ① 株主の皆様へ

## ③ Special Issue

- ・中期経営計画
- ・兼房のフィールド

## ⑦ Topics

## ⑧ 新製品情報

## ⑨ 営業の概況

## ⑪ 連結財務諸表

- ・連結貸借対照表
- ・連結損益計算書
- ・連結キャッシュ・フロー計算書
- ・連結株主資本等変動計算書

## ⑬ 単体財務諸表

- ・貸借対照表
- ・損益計算書
- ・株主資本等変動計算書

## ⑭ Information

- ・会社概要
- ・役員
- ・株式の状況

## 免責事項

本報告書に掲載されている当社の計画・戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、見通し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。将来予測に関する記述に全面的に依拠することはお控えいただきますようお願いいたします。

## 「世界のカネフサ」のブランドパワーを バネに、新たな飛躍を目指します。



取締役社長

渡邊 将人

### Q 3月11日の東日本大震災に関して、 被害状況などをお聞かせください。

まず、被災者の方々には心よりお見舞い申し上げます。また被災地が一日も早く復興することをお祈り申し上げます。

テレビであのガレキの山を見た途端、胸に込み上げて来るものがありました。そこにある多くが建物の部材であり、弊社の刃物が何らかのかたちで関わっていたと考えたら、あらためて皆様とカネフサとの接点の広さ、関わりの深さを感じ入ってしまいました。三陸海岸エリアには合板メーカーも多く、身近なお客様に大きな被害が出たことについては、わが身を切られる思いでもありました。弊社の仙台営業所は外壁に亀裂が入った程度で済みましたが、この震災を機に、本社工場内の地震対策をあらためて見直すなど、防災対策を強化していくつもりです。

### Q あらためて当期の業績について お聞かせください。

異常とも言える円高水準が続く中、おかげさまで売上・利益とも計画を上回る成果を残すことができました。グループ全体、営業から製造まで、それぞれのスタッフがそれぞれの持ち場でよく努力してくれたと感謝しています。国内市

場では、エコカー減税による需要増もあり、自動車関連分野が大きく伸びました。一方、住宅関連分野は着工戸数が82万戸と低い水準で推移しましたが、市場における当社製品のシェアを上げることによって、拡大を果たしています。

米国では好調な自動車産業に牽引されるかたちで刃物需要が高まった一年でした。現在のオフィスが手狭になったことと、今後の需要拡大を見越して、ケンタッキー州に土地を購入する予定です。自動車産業が好調という点では、欧州も同様の結果になっています。折からのユーロ安を受けて各自動車メーカーとも好調でした。一時はピークの2割にまで売上が落ちこんだ時期もありましたが、昨年度は8割程度まで回復してきています。

アジアに関しては、中国では日本向けの金属切断用丸鋸などの生産が増加しました。今後は現地での営業体制を強化し、中国国内での市場開拓を目指します。また韓国でも非住宅分野を中心に需要が大きく伸びてきています。インドネシアに関してはストライキによる影響が大きく、現地法人は営業損失を計上しましたが、司法当局の公正な判断を受け、新たなスタートを切れる見通しが立ってきました。新規従業員の採用・教育も含め、半年以内には正常稼働に戻せると見込んでいます。また、新興市場ではインドが好調に推移しており、今後の伸びが楽しみになってきました。ただ、ブラジルに関しては建設資材等のコスト高や、複雑な税制面等に不安要素があることから、生産拠点の建設計画を見直し、当面は営業拠点としての機能に特化することとしました。

全体を俯瞰してみると、「大手のユーザー企業に丁寧に対応することで最善のサービスを提供する」というカネフサならではの勝ちパターンが見えてきたような気がします。今後も現地にじっくり腰を落ち着けて、事態を予測しながら次の一手を打っていくつもりです。

### Q 「生き残りをかけた挑戦」を掲げた新しい3か年中期経営計画がスタートしましたが、この計画のポイントについてお聞かせください。

カネフサのブランド力の真価を発揮していくためには、全ての面で今以上にパワーアップする必要があります。そのためには、まずもって高い気概と、危機感をもって臨むこと。「生き残りをかけた挑戦」というのは、真のグローバル企業を目指す日本のカネフサ、私たち自身に向けたメッセージでもあるんです。数字としては早期に200億の売上と、会社設立以来の最高益を達成したい。そのステップとしての中期経営計画です。計画初年度、2011年単年度の売上10%アップは既に手ごたえとしてつかんでいます。

### Q 最後になりましたが、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

繰り返しになりますが、震災にあわれた皆様には心よりお見舞いとお悔みを申し上げます。弊社も義援金を寄贈させていただきましたが、こうした金銭的支援に限らず、今後とも様々な方法で恩返しをさせていただきたいと考えています。

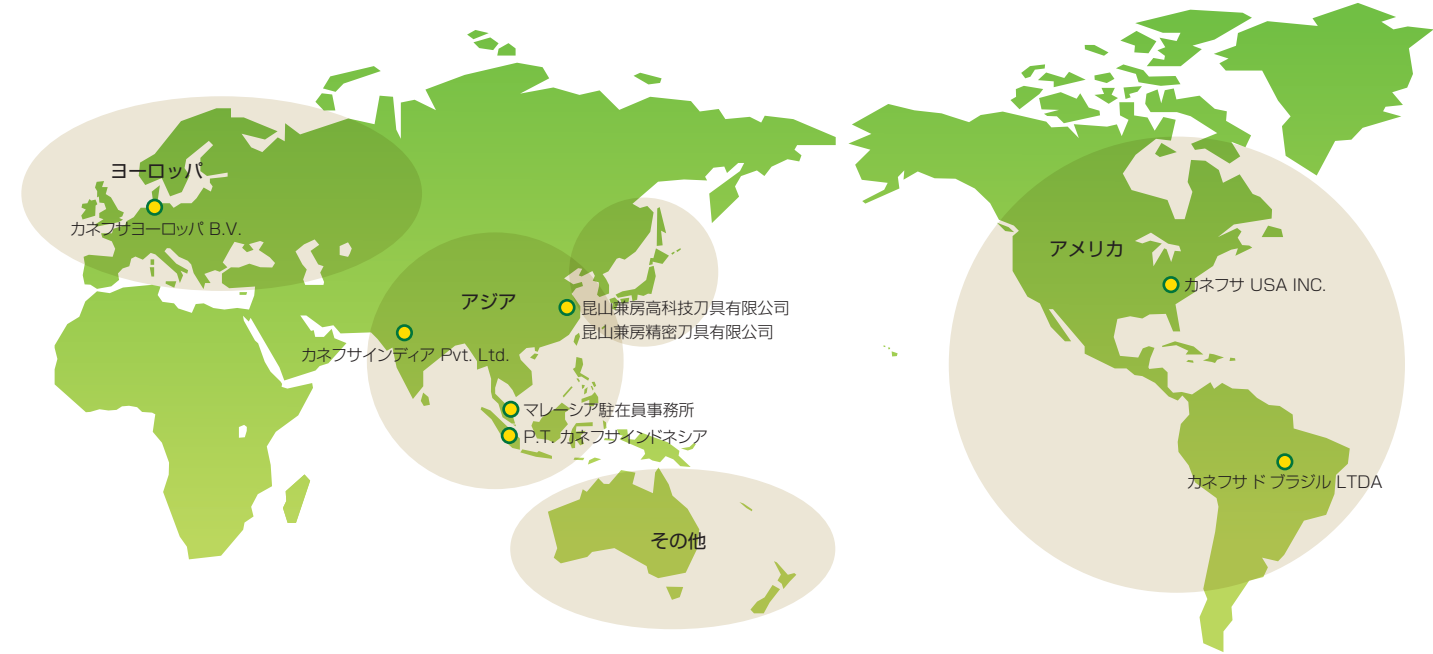
これまでのグローバル化への挑戦の中で、カネフサが世界各地で通用する品質とブランド力を獲得してきていることを実感しています。同時に世界各地の現地スタッフも育ちはじめており、「世界で期待される」刃物メーカーのポジションに立ち得たのではないかと自負しております。これからも常に「これがカネフサの仕事だと胸を張って言えるか?」という自問自答を繰り返しながら、更なる飛躍に向かっていく所存です。

### 生き残りをかけた挑戦

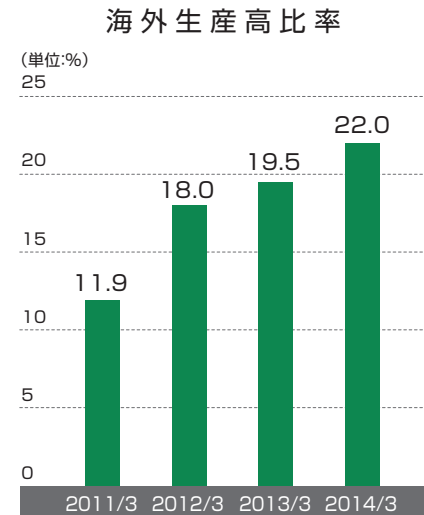
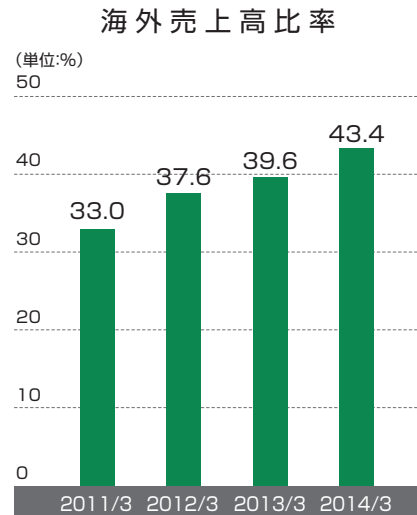
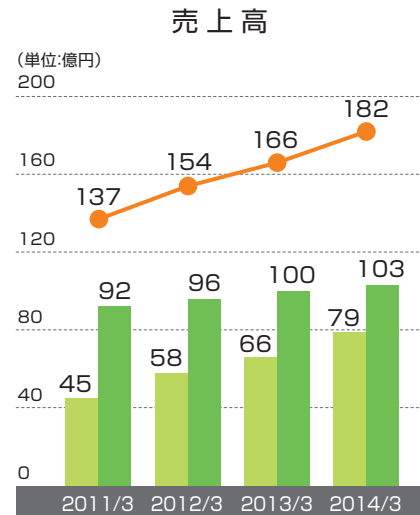
『生き残りをかけた挑戦』と厳しい表現ではありますが、兼房グループが更なる飛躍を成し遂げるために、グループ社員が一丸となって取り組んでいこうという意味を表すとともに、刃物のトップメーカーとして兼房グループの意気込みを表現した言葉です。持てる経営資源を最大限に活かし、世界が認める『真のグローバル企業』となるため、中期ビジョン・経営目標を達成していきます。

**1** 中期ビジョン  
兼房グループ2013年度  
売上高182億円の実現

**2** 中期ビジョン  
グローバル生産  
分業体制の確立



### 経営目標



■国内 ■海外 ●合計

### 地域別売上高計画

国内市場は非住宅分野の開拓と既存市場での占有率拡大により、海外市場では各地域の市場ニーズにマッチした製品投入と、経済成長著しいBRICsなど新興国でのマーケティング強化によって、拡販を図っていきます。

(単位:百万円)

	2011/3(実績)	2012/3	2013/3	2014/3
国内売上高	9,162	9,610	10,010	10,310
海外売上高	4,519	5,800	6,560	7,910
アジア	2,440	2,970	3,260	3,920
アメリカ	820	1,010	1,190	1,460
ヨーロッパ	1,074	1,620	1,870	2,230
その他	183	200	240	300
合計	13,681	15,410	16,570	18,220
海外売上高比率	33.0%	37.6%	39.6%	43.4%

### 事業別売上高計画

いずれの事業に於いても、多種にわたる製品ラインナップとユーザーニーズへ個別に対応する最善のサービスを提供することにより、計画を推進します。

(単位:百万円)

	2011/3(実績)	2012/3	2013/3	2014/3
平刃事業	4,672	5,220	5,550	6,170
カッター事業	3,372	3,600	3,730	3,890
丸鋸事業	5,398	6,350	7,030	7,850
その他	237	240	260	310
合計	13,681	15,410	16,570	18,220



兼房は、様々な産業へ工業用刃物を供給し、世界のものづくりに貢献します。

## 住宅関連産業

住宅関連産業では住まいのあらゆる部分に切削工具が使用されています。長年の技術の蓄積と先進技術によって様々な切削条件、加工方法に応じて高精度で超寿命の切削工具をご提供いたします。



こんな意外なところにも…

システムキッチンや洗面化粧台などに使用されている人造大理石、FRP（繊維強化プラスチック）製のユニットバスなどの樹脂部材も当社のダイヤモンドチップソーやダイヤモンドビットで高品位に仕上げています。



## 自動車関連産業

自動車を構成する様々な部品には切断、成型、仕上げ加工等の製造工程があり切削工具が活躍しています。鉄鋼、非鉄、樹脂、ゴム、複合材向けに当社の総合力を結集しアイテムの充実を図っています。



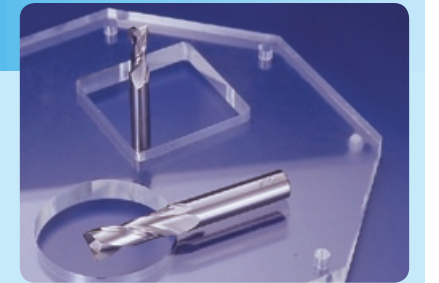
## 鉄鋼・非鉄関連産業

合金鋼、ステンレス鋼および銅、アルミニウム等の非鉄金属材料まで各種金属の切断に抜群の耐久性で精密な切断加工を実現いたします。



## IT関連産業

液晶画面を構成する各種フィルム、PC、携帯電話等の樹脂部品の仕上げ加工に切削工具が活躍しています。耐久性、加工品質向上に効果を発揮する製品アイテムをご提供いたします。



## 製本・印刷関連産業

製本、紙工、製紙過程で使用されるあらゆる機械刃物を取り揃えています。超合金や熱処理などの独自技術により製作された耐久性の高い機械刃物をご提供いたします。



## リサイクル関連産業

廃棄物の減容・リサイクルに際して特に重要視される『破碎』および『粉碎』工程において使用されており、様々なリサイクル工場で高い評価を得ています。





# Topics トピックス



## IWF2010 (米国・アトランタ)

2010年8月25日~28日

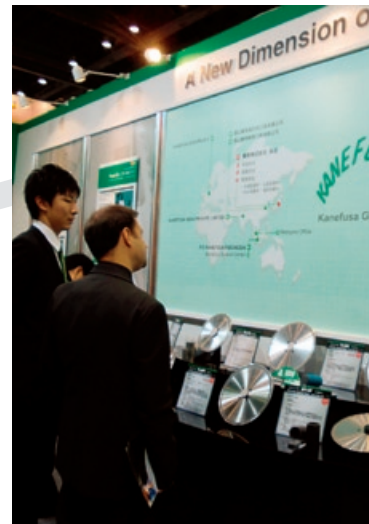
2年に一度開催される米国最大の木材二次加工展「IWF 2010」がジョージア州アトランタで8月25日から28日の4日間開催され、当社も出展しました。出展者数は950社で、今回は150社の新規出展があり、特に中国を中心とするアジアの出展が目立っていました。当社はチップソーを中心とした展示に加え、プリセット式フィンガーカッターなど独自性を打ち出した製品や、チップナーナイフ、エンジン替刃など木材加工産業を広くカバーした製品群でお客様にアピールしました。当社ブース来訪者の中には再研磨業関連の企業もあり、米国内の木工刃物市場へ更に進出する可能性を見出すことができました。



## JIMTOF2010 (東京ビッグサイト)

2010年10月28日~11月2日

10月28日から11月2日の6日間、東京ビッグサイトにおいてJIMTOF2010(第25回国際工作機械見本市)が開催されました。世界三大マシン・ツールショーのひとつですが、今回の来場者は景気後退の影響を受けてか、約13万8千名、前回比81.5%と減少しています。会場では中国・韓国などアジアの金属加工業界の好調さを示すように、外国人来場者が多く見受けられました。当社も5回目の出展となり、金属切断用丸鋸・端材切断機・樹脂加工用切削工具を主体にPRを実施。当社への来訪者は延べ約650名と盛況でした。自動車関連ユーザーからの難削材切断に対する問い合わせや、特に樹脂加工用切削工具に注目が集まり、ユーザーおよび工具商社から多くの照会があり、市場開拓において実りのある展示会となりました。



# New Products Information

## 新製品情報

### 特徴

刃物切削面の表面改質により、切り屑の流れや排出を滑らかにし、切削抵抗を低減しました。また、刃付け方法や切れ刃形状の最適化により、初期摩耗を抑制することで、均一な厚みの樹脂シートを安定してピーリング(剥く)またはスライスできます。

### 樹脂ピーリング・スライサーナイフ

### 用途

樹脂丸棒をピーリングまたは樹脂板をスライスして薄いシートを作成する。

### 特徴

近年、小径の低炭素鋼製パイプ材では高速での切断が要求され、専用切断機も多くなっています。そこで、開発したのが「Ferro Max Speed」の改良バージョンで、チップ材種、刃形状およびコーティング材種を見直し、耐久損傷や耐摩耗性を大幅に向上させた金属切断用丸鋸です。高速切断用として高生産性と長寿命を両立することが可能となりました。

### Ferro Max Speed II

### 用途

低炭素鋼製パイプ材を高速で切断する。

## 概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、新興国での需要の増加や政府による経済政策の効果などもあり、回復に向けての動きが見られましたが、円高傾向の長期化、厳しい雇用情勢、さらには東日本大震災の影響などにより先行き極めて不透明な状況が続いております。一方、世界経済は、欧州や米国経済に懸念はあるものの、中国やインドなどの新興国の景気拡大に支えられ、総じて緩やかな回復基調でありました。

当社製品と関連の深い国内住宅関連産業におきましては、住宅需要は低金利や住宅減税政策などにより持ち直しの動きが続いたものの、新設住宅着工戸数は低水準で推移し、厳しい状況が続きました。また、自動車関連産業におきましては、新興国市場の拡大、環境対応車や小型車の伸長など、世界全体の総自動

車生産台数は回復傾向で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループはグローバル市場での販売拡大、非住宅関連市場の開拓、国内住宅関連市場の占有率拡大などを目指し、戦略的な製品開発、生産、営業活動を展開いたしました。

## 売上高

国内における売上は、自動車関連市場での金属切断用丸鋸を始めとして、非住宅関連刃物が堅調に推移いたしました。一方、海外での売上は、米国およびアジアを中心に金属切断用丸鋸、木工用丸鋸などが好調に推移いたしました。

なお、インドネシアの連結子会社P.T.カネフサインドネシアにおきましては、一部現地従業員によるストライキが発生し、工場稼働率が大幅に低下したた

め、同社生産品を当社に生産移管し対応いたしました。

この結果、当連結会計年度における売上高は136億8千1百万円(前年同期比19.9%増)となりました。

## 利益

利益面につきましては、円高による採算悪化やインドネシア連結子会社生産品の当社生産移管による原価コストアップ要因があったものの、売上高の増加により営業利益は6億8百万円(前年同期は4億1千5百万円の営業損失)となりました。また、営業外費用で、為替差損8千8百万円、東日本大震災に対する災害義援金5千万円を計上したことなどにより、経常利益は4億8千5百万円(前年同期は3億4千7百万円の経常損失)、当期純利益は2億8千8百万円(前年同期は1億1千4百万円の当期純損失)となりました。

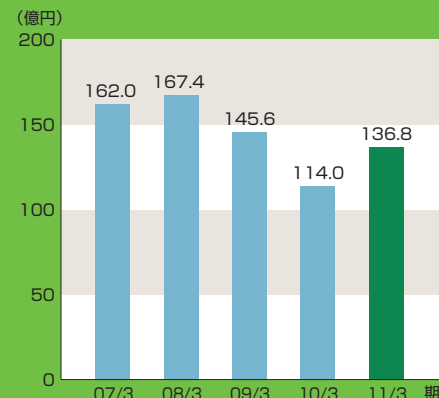
## 来期の見通し

今後の経済見通しにつきましては、世界経済は緩やかな景気回復が見込まれるものの、わが国においては東日本大震災の影響が大きく、電力不足の長期化、部品供給不足による工場の操業度低下など、先行きは予断を許さない状況が続くものと思われま

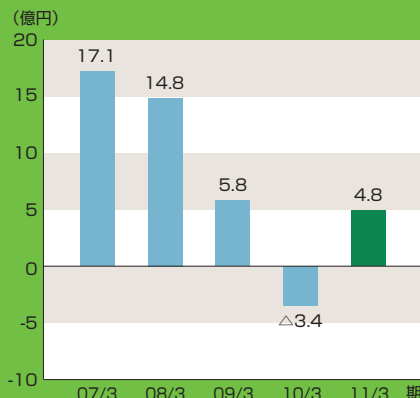
す。このような状況の中で、当社グループは更なるグローバル化を推進し、海外生産・売上の拡大を図るとともに、グループ全体での製造原価低減と全般的な経費削減による収益構造の強化を継続的に進めてまいります。

次期の連結業績見通しとして、売上高は154億1千万円、営業利益13億6千万円、経常利益13億6千万円、当期純利益8億3千万円を見込んでおります。

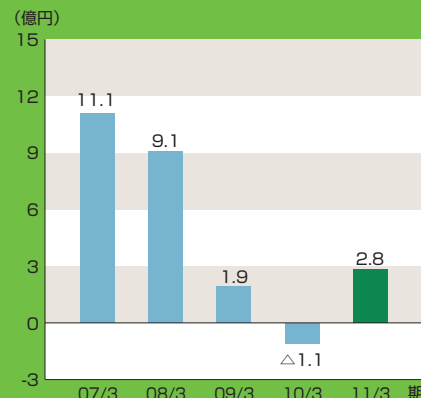
### 売上高



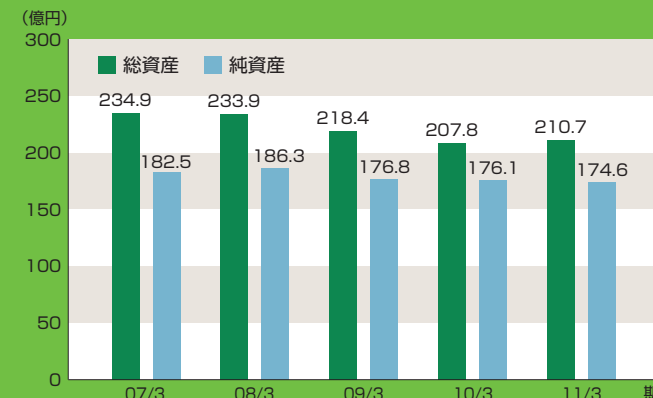
### 経常利益又は経常損失(△)



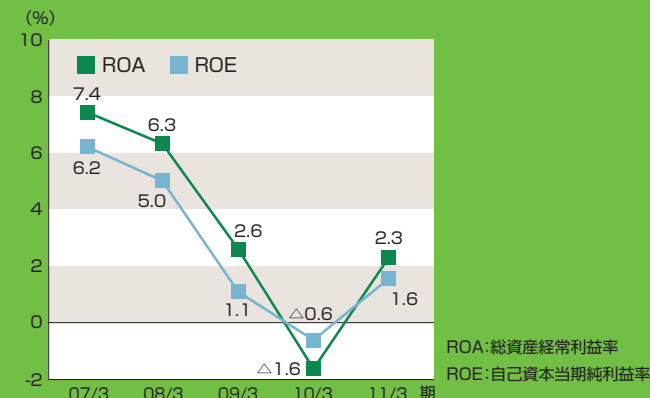
### 当期純利益又は当期純損失(△)



### 総資産・純資産



### ROA/ROE



ROA:総資産経常利益率  
ROE:自己資本当期純利益率

## 資産

現金及び預金が1億6千1百万円、受取手形及び売掛金が3億8千8百万円、繰延税金資産が1億4千5百万円、それぞれ増加し、有形固定資産が5億5百万円減少したことなどにより、前期末と比べ2億9千1百万円増加の210億7千7百万円となりました。

## 負債

支払手形及び買掛金が3億2千6百万円増加したことなどにより、前期末と比べ4億4千2百万円増加し36億1千6百万円となりました。

## 純資産

利益剰余金が7千9百万円増加し、その他包括利益累計額が2億3千万円減少したことにより、前期末と比べ1億5千万円減少し174億6千1百万円となりました。また、自己資本比率は前期末の84.7%から82.8%となりました。

## 連結貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		平成23年3月31日現在	平成22年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産		11,906,648	11,109,675
固定資産		9,171,027	9,676,544
<b>資産合計</b>		<b>21,077,675</b>	<b>20,786,220</b>
(負債の部)			
流動負債		2,848,896	2,337,136
固定負債		767,618	837,045
<b>負債合計</b>		<b>3,616,515</b>	<b>3,174,181</b>
(純資産の部)			
株主資本		17,671,555	17,592,000
その他の包括利益累計額		△210,395	20,038
<b>純資産合計</b>		<b>17,461,160</b>	<b>17,612,038</b>
<b>負債純資産合計</b>		<b>21,077,675</b>	<b>20,786,220</b>

## 連結損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		平成22年4月1日から平成23年3月31日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
売上高		13,681,376	11,408,217
売上原価		9,277,597	8,223,192
売上総利益		4,403,779	3,185,025
販売費及び一般管理費		3,795,042	3,600,540
営業利益又は営業損失(△)		608,736	△415,515
営業外収益		52,473	159,449
営業外費用		175,575	91,474
経常利益又は経常損失(△)		485,634	△347,539
特別利益		1,756	280,368
特別損失		46,242	91,837
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)		441,148	△159,008
法人税等		153,021	△44,743
少数株主損益調整前当期純利益		288,126	-
当期純利益又は当期純損失(△)		<b>288,126</b>	<b>△114,265</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		平成22年4月1日から平成23年3月31日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,210,763	866,684
投資活動によるキャッシュ・フロー		△863,703	4,550
財務活動によるキャッシュ・フロー		△208,571	△192,243
現金及び現金同等物に係る換算差額		△84,803	△8,854
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)		53,686	670,138
現金及び現金同等物の期首残高		3,115,024	2,444,886
現金及び現金同等物の期末残高		<b>3,168,711</b>	<b>3,115,024</b>

## 連結株主資本等変動計算書(要旨) 当期(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

単位:千円

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
<b>平成22年3月31日残高</b>	2,142,500	2,167,890	13,489,971	△208,361	17,592,000	151,894	△131,856	20,038	17,612,038
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△208,512		△208,512				△208,512
当期純利益			288,126		288,126				288,126
自己株式の取得				△58	△58				△58
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						42,151	△272,586	△230,434	△230,434
<b>連結会計年度中の変動額合計</b>	-	-	79,614	△58	79,555	42,151	△272,586	△230,434	△150,878
<b>平成23年3月31日残高</b>	2,142,500	2,167,890	13,569,585	△208,420	17,671,555	194,046	△404,442	△210,395	17,461,160



## 貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	
	当期 平成23年3月31日現在	前期 平成22年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	10,494,020	9,821,931
固定資産	10,127,972	10,384,865
<b>資産合計</b>	<b>20,621,993</b>	<b>20,206,797</b>
(負債の部)		
流動負債	2,818,608	2,304,029
固定負債	752,917	823,740
<b>負債合計</b>	<b>3,571,525</b>	<b>3,127,770</b>
(純資産の部)		
株主資本	16,856,420	16,927,132
評価・換算差額等	194,046	151,894
<b>純資産合計</b>	<b>17,050,467</b>	<b>17,079,027</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>20,621,993</b>	<b>20,206,797</b>

## 損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	
	当期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	前期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
売上高	12,937,926	10,294,492
売上原価	9,243,800	7,891,923
売上総利益	3,694,126	2,402,569
販売費及び一般管理費	3,201,936	2,986,109
営業利益又は営業損失(△)	492,190	△583,539
営業外収益	53,879	186,757
営業外費用	250,700	90,785
経常利益又は経常損失(△)	295,369	△487,567
特別利益	19,569	280,635
特別損失	46,999	91,797
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	267,940	△298,729
法人税等	130,080	△103,998
当期純利益又は当期純損失(△)	137,859	△194,731

## 株主資本等変動計算書(要旨)

当期(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

単位:千円

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
<b>平成22年3月31日残高</b>	2,142,500	2,167,890	12,825,103	△208,361	16,927,132	151,894	17,079,027
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△208,512		△208,512		△208,512
当期純利益			137,859		137,859		137,859
自己株式の取得				△58	△58		△58
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						42,151	42,151
<b>事業年度中の変動額合計</b>	-	-	△70,652	△58	△70,711	42,151	△28,560
<b>平成23年3月31日残高</b>	2,142,500	2,167,890	12,754,450	△208,420	16,856,420	194,046	17,050,467

# Information

## 会社概要 (平成23年3月31日現在)

商号	兼房株式会社 KANEFUSA CORPORATION
設立	昭和23年11月25日
資本金	21億4,250万円
本社所在地	愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目1番地
従業員数	571名
主要な事業内容	工業用機械刃物・工具・工作機械・機械部品の製造販売。ならびに、関連する事業に対する投融資および技術供与。
主要な事業所	本社・工場 愛知県丹羽郡大口町 支社 中部 関東 関西 営業所 札幌 福岡 広島 仙台 海外駐在員事務所 マレーシア
子会社	P.T.カネフサインドネシア カネフサUSA INC. カネフサヨーロッパB.V. 昆山兼房高科技刀具有限公司 昆山兼房精密刀具有限公司 カネフサインディア Pvt. Ltd. カネフサ ドブラジル LTDA 大口サービス株式会社

## 役員 (平成23年6月28日現在)

取締役社長	渡邊 将人	取締役	春日 晃
専務取締役	太田 正志	取締役	萬谷 哲朗
常務取締役	稲葉 公男	取締役	石田 信之
常務取締役	平子 哲朗	取締役	鈴木 仁
常務取締役	西尾 悟	常勤監査役	柳瀬 敏行
常務取締役	藤吉 芳久	監査役	辻中 修
		監査役	鮎澤 多俊

## 株式の状況 (平成23年3月31日現在)

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	14,310,000株
株主数	1,742名

## 大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
大口興産株式会社	2,299	16.5
渡邊 裕子	1,200	8.6
太田 万佐子	1,161	8.3
兼房従業員持株会	963	6.9
渡邊 美奈子	845	6.0
渡邊 浩	743	5.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	574	4.1
渡邊 将人	421	3.0
太田 正志	392	2.8
株式会社りそな銀行	200	1.4

(注)持株比率は自己株式(409千株)を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布状況

